

嶺北道路



ふくい企業の挑戦

駐車場のことなら何でも相談に乗ります。昨年、駐車場の白線部分に広告を載せる「アドライン」を開発し、今年10月には大幅に施工方法を改良し事業を展開している嶺北道路（福井市上六条町、鎌田親彦社長）。名前の通り、もともと道路舗装などをメインとしていたが、今春から駐車場に特化。公共事業削減の中、一極集中で生き残りをかける。昨年から施工を始めたアドラインは、駐車場の区切りとなる白線部分に、カラーの文字や簡単なロゴなどを表示できる。それぞれの色の合成樹脂素材を、路面に焼き付け塗装する仕組み

嶺北道路（福井市）

だ。新たな街頭広告として登場したが「色に制限があったり、複雑な形ができないなどの課題があった」と鎌田社長は打ち明ける。

今春、課題解決に向け大阪の表面処理加工の企業に相談したところ、デザインを直接合成樹脂に印刷することに成功。安価で、複雑な模様やグラデーションのような色彩でも自在に表現できるようになった。写真をそのまま塗装することも可能という。これにより駐車場全面を写真や絵、文字などで

企業の思い伝える空間へ



どんなデザインでも表現できるようになった嶺北道路のアドライン＝福井市北四ツ居2丁目、カフェあんの駐車場

は商品のサービスのほか、お母さんと赤ちゃんを優しいタッチで描いたイラストと「ママ・妊婦優先」の文字を塗装し、子育てママに優しい店でありたいという思いを表現した。

今の時代、商品価値だけではモノは売れなくなってきた。「店のファンを増やすことが大切な時代。これまでにアスファルトしかなかった駐車場で感動や感激を提供する。そして、そのような店が増えたら、きっと街は楽しくなる」

もちろん、通常の駐車場の施工も行う。単なるアスファルトではなく芝や土を生かした施工も得意としている。目指すは駐車場に関するコンサルティング。「女性や高齢者が車を止めやすい白線の表示方法や、車いす専用駐車場に一般の人が止めにくくする方法など、常に頭の中でアイデアを絞っています」と笑みをこぼす。

駐車場コンサルに力